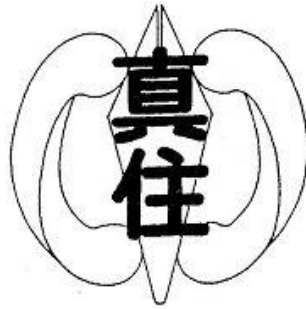


令和３年度

# 「運営に関する計画」



令和３年４月２８日

大阪市立真住中学校

令和3年4月8日

## 学校経営計画

大阪市立真住中学校  
校長 山口 博功

＜ 学校教育目標 ＞ R2から3年間のビジョン

夢に向かって「強み」が発揮できる心豊かな生徒の育成

＜ 学校園の組織目標等 ＞ R3年度の教職員が同じ方向でめざすゴール

社会に開かれたカリキュラム及び3観点評価の確立と、生徒が夢に向かって「強み」が発揮でき、地域・保護者にとって魅力あふれる学校をめざす

【 課題 】 昨年度のアンケート結果からPDCAを回すべき課題

- ・教職員アンケートで「学校運営等に教職員の意見が反映されている」「各分掌や学年間の連携が行われ有機的に機能している」「学習指導や評価は教職員同士が協力している」「教育課題について教職員同士で共通理解」がどれも50%以下であることを重く受け止め、管理職が率先し組織を改善する中で、教職員の心理的な安全性を高め、教職員全員で互いに話し合える文化や疑問に思ったら言える環境づくりをめざす。
- ・生徒アンケートで「落ち着いた雰囲気授業を受けることができている」で、1学期平均79%から2学期平均66%と13%減少しており、1年間を通して、学年間で指導を連携する中で、教職員組織のブレない生活指導体制を構築させる必要がある。
- ・生徒アンケートで「自分によいところがあると思う」が62%、府平均68%に近づき、「将来の夢や目標を持っている」が69%で、府平均67%に近づいている。更なる自己有用感の向上をめざし、生徒が自分の「強み」を知り、積極的に発揮できるカリキュラムの改善と、自分の考えを文章で表現できる能力を育成する必要がある。
- ・不登校生徒が1年生19名・2年生10名の13%の割合であり、9月よりアシストルーム・みらいベース等を開設した結果、1年生3名・1年生4名が別室登校できている。更なる不登校生徒を生み出さない組織的なアプローチの改善が必要である。

【 重点目標 】 コロナ禍等の予測困難な社会を生き抜くための必要なスキルの育成

### ①年間を通じ授業規律を確保し、地域保護者から信頼される生徒指導体制の確立

1年間を通じて、学年間の連携を密にし、学校安心ルールに基づきどの学年も等しくブレない生活指導を徹底することで、地域保護者に絶対的な信頼を与える。

### ②生徒の自己有用感の向上をめざしたカリキュラムマネジメントの実施と運用

単元配列表を掲示し、教員全体で月ごとに教育内容を開発・精選し、探求的な学習の中で生徒が課題解決にチャレンジする中で、更に自己有用感を向上させる。

### ③1人1台端末の日常的な活用と、授業改善の中で文章作成能力を向上させる

疑問があれば端末でいつでも検索できるように、寛容性をもった活用をめざす。

学習内容の振り返りや評価等で、自分の考えを文章化できる能力の向上をめざす。

### ④多くの学校サポーターと連携した不登校を生み出さないアプローチの評価改善

1年生の不登校は2学期以降に急増する傾向にある。アシストルームやみらいベース等の運用を教員全体で試行錯誤する中で、不登校生徒の割合5%以下をめざす。

### ⑤地域・行政・学校が協働で創る防災教育の構築と人権教育の整理と学びの再構築

浸水被害の可能性が高い地域の要望を受け、生徒の防災意識の向上を地域と考える。

既存の人権(同和)教育を整理し、教員全体で持続可能な探求的学習に再構築する。

### ⑥地域やPTAと協働し、学校の可視化による魅力あふれる学校づくりの確立

地域やPTAの方々と教職員が、授業や行事などを通じて協働する中で、コミュニティを広げながら、HPなどを通じて生徒や教職員の頑張りを可視化する。

## 大阪市立真住中学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状****【授業力等、学ぶ力の育成・学力向上関連】**

「授業等で、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」で、12 月 75%の生徒が肯定的な意見を示している。

- ①R2 本市施策の「主対深」推進事業で、授業研究を 7 月から 1 月までの 5 回実施し、めあてや見通しを示し、ICT の活用、学びの手法や共有、振り返りシートの工夫などの向上が見られている。現在 81%の教員が ICT の活用等の授業改善に取り組んでいる。
- ②R2 に発足したカリキュラム委員会を毎月 1 回実施し、3 観点評価研修を行った。特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、単元のまとまりごとの振り返りを書かせるなど、校長戦略予算を活用し、国語科と連携して文章作成能力の向上に取り組む。
- ③総合的学習の時間を含めた大型ボードに単元配列表を掲示し、授業後に付箋や矢印線を入れ毎年 PDCA を回し、教科横断的な改善を進めている。常に財務マネジメントと連動しており、早めの予算計画等の事務職員との連携の重要性も理解している。

**【子どもの安心・安全の実現】**

「学校では、落ち着いた雰囲気授業を受けることができていますか」で、12 月 66%の生徒が肯定的な意見を示し、昨年度の 62%を上回った。

- ①大きな生活指導事案や保護者対応がなく、関係諸機関との対応も少なかった。生徒指導主事中心に、関係教員で指導方針を決めて対応する生徒指導体制が確立している。
- ②不登校生徒の新たなアプローチとして、NPO 主催の月 2 回放課後の「みらいベース」は、15 名以上の生徒が集まり、安心できるコミュニティの場になっている。  
不登校生徒の対応は 11 月より、図書室に「アシストルーム」を設置した。現在は 14 名が参加しており、不登校にさせない目標を強く持ち R3 は 5%以下を達成したい。
- ③R3 は避難所スタッフ体験、ハザードマップ、消防訓練といった系統だった防災教育を、住之江連合会長と行政と一緒に 11 月実施をめざし地域と取組を始めている。

**課題**

- ・教職員アンケートで「学校運営等に教職員の意見が反映されている」「各分掌や学年間の連携が行われ有機的に機能している」「学習指導や評価は教職員同士が協力している」「教育課題について教職員同士で共通理解」がどれも 50%以下であることを重く受け止め、管理職が率先し組織を改善する中で、教職員の心理的な安全性を高め、教職員全員で互いに話し合える文化や疑問に思ったら言える環境づくりをめざす。
- ・生徒アンケートで「落ち着いた雰囲気授業を受けることができています」で、1 学期平均 79%から 2 学期平均 66%と 13%減少しており、1 年間を通して、学年間で指導を連携する中で、教職員組織のブレない生活指導体制を構築させる必要がある。
- ・生徒アンケートで「自分によいところがあると思う」が 62%、府平均 68%に近づき、「将来の夢や目標を持っている」が 69%で、府平均 67%に近づいている。更なる自己有用感の向上をめざし、生徒が自分の「強み」を知り、積極的に発揮できるカリキュラムの改善と、自分の考えを文章で表現できる能力を育成する必要がある。
- ・不登校生徒が 1 年生 19 名・2 年生 10 名の 13%の割合であり、9 月よりアシストルーム・みらいベース等を開設した結果、1 年生 3 名・2 年生 4 名が別室登校できている。更なる不登校生徒を生み出さない組織的なアプローチの改善が必要である。

**中期目標** R1 から 3 年目(最終年度)

**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- 令和 3 年度の校内調査における「学校や社会のきまり守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を、**92%以上**にする。（昨年度は 92%）
- 令和 3 年度の校内調査における「いじめはどんな理由があっても絶対にいけないことだと思います」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を、**94%以上**にする。（昨年度は 94%）
- 令和 3 年度の校内調査における「道徳の授業では興味をもって、さまざまな意見を聞くことができますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を、**80%以上**にする。（昨年度は 77%）
- 令和 3 年度の校内調査において不登校生徒の割合を **5%以下**にする。（昨年度は 8%）

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

- 令和 3 年度の校内調査における「学校の宿題などの課題を出していますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を、**88%以上**にする。（昨年度は 88%）
- 令和 3 年度の全国学力・学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目の肯定的回答率を **65%以上**にする。（昨年度は 54%10 月学校集計・R1 府平均 67%）
- 令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を男女ともにより全国平均より向上させる。**(R1 長座体前屈男子 37(43)女子 43(46)・持久走女子 272(289))**
- 令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目の男女ともに肯定的回答率を向上させる。**(令和元年度男子 94%女子 65%・全国男子 89%女子 79%)**

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

令和 3 年度の学校教育目標を、『夢に向かって「強み」が発揮できる心豊かな生徒の育成』、学校園の組織目標を、『社会に開かれたカリキュラム及び 3 観点評価の確立と、生徒が夢に向かって「強み」が発揮でき、地域・保護者にとって魅力あふれる学校をめざす』と定め、次の 6 項目を重点目標とする。

- ①年間を通じ授業規律を確保し、地域保護者から信頼される生徒指導体制の確立  
1 年間を通じて、学年間の連携を密にし、学校安心ルールに基づきどの学年も等しくブレない生活指導を徹底することで、地域保護者に絶対的な信頼を与える。
- ②生徒の自己有用感の向上をめざしたカリキュラムマネジメントの実施と運用  
単元配列表を掲示し、教員全体で月ごとに教育内容を開発・精選し、探求的な学習の中で生徒が課題解決にチャレンジする中で、更に自己有用感を向上させる。
- ③1 人 1 台端末の日常的な活用と、授業改善の中で文章作成能力を向上させる  
疑問があれば端末でいつでも検索できるように、寛容性をもった活用をめざす。  
学習内容の振り返りや評価等で、自分の考えを文章化できる能力の向上をめざす。
- ④多くの学校サポーターと連携した不登校を生み出さないアプローチの評価改善  
1 年生の不登校は 2 学期以降に急増する傾向にある。アシストルームやみらいベース等の運用を教員全体で試行錯誤する中で、不登校生徒の割合 5 %以下をめざす。

⑤地域・行政・学校が協働で創る防災教育の構築と人権教育の整理と学びの再構築

浸水被害の可能性が高い地域の要望を受け、生徒の防災意識の向上を地域と考える。  
既存の人権(同和)教育を整理し、教員全体で持続可能な探求的学習に再構築する。

⑥地域やPTAと協働し、学校の可視化による魅力あふれる学校づくりの確立

地域やPTAの方々と教職員が、授業や行事などを通じて協働する中で、コミュニティを広げながら、HPなどを通じて生徒や教職員の頑張りを可視化する。

**【子供が安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

**全市共通目標(小・中学校)**

- ・令和3年度の校内調査において、校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を **100%**にする。(昨年度は 100%)
- ・令和3年度の校内調査における「学校や社会のきまりを守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を **92%**以上にする。(昨年度は 92%)
- ・令和3年度の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を **0名**にする。(昨年度は 0名)
- ・令和3年度の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を **5%以下**にする。(昨年度は 8%)

**学校園の年度目標**

- ・令和3年度の校内調査における「落ち着いた雰囲気授業を受けることができる」の項目について肯定的に答える生徒の割合を **70%以上**にする(昨年度は 66%)
- ・令和3年度の校内調査における「自分から進んであいさつが出来ていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を **80%以上**にする。(昨年度は 80%)
- ・令和3年度の校内調査における「学校や社会のきまりを守っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を **92%以上**にする。(昨年度は 92%)
- ・令和3年度の校内調査における「体育大会・宿泊行事・学年行事などの学校行事に活発に取り組んでいますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を **88%以上**にする。(昨年度は 88%)

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

**全市共通目標(小・中学校)**

- ・令和3年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(昨年度 **1.2ポイント**向上)
- ・令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より **3ポイント**減少させる。(昨年度 **3ポイント**減少)
- ・令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より **2ポイント**増加させる。(昨年度 **0.8ポイント**減少)
- ・令和3年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。(昨年度は 87%)

#### 学校園の年度目標

- ・令和３年度の校内調査における「学校の宿題などの課題を出していますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を **88%**以上にする。(昨年度 88%)
- ・令和３年度の校内調査における「授業等で、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を **75%**以上にする。(昨年度 75%)
- ・令和３年度の校内調査における「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していなかったところについて、わかるまで教えてくれていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を **75%**以上にする。(昨年度 75%)
- ・令和３年度の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を **70%**以上にする。(昨年度 69%)

### 3 本年度の自己評価結果の総括



(様式2)

## 大阪市立真住中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【子供が安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の校内調査において、校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を <b>100%</b>にする。(昨年度は100%)</li> <li>令和3年度の校内調査における「学校や社会のきまりを守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を <b>92%</b>以上にする。(昨年度は92%)</li> <li>令和3年度の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を <b>0名</b>にする。(昨年度は0名)</li> <li>令和3年度の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を <b>5%以下</b>にする。(昨年度は8%)</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の校内調査における「学校では、落ち着いた雰囲気授業を受けることができますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を <b>70%</b>以上にする。(昨年度は66%)</li> <li>令和3年度の校内調査における「自分から進んであいさつができていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を <b>80%</b>以上にする。(昨年度は80%)</li> <li>令和3年度の校内調査における「学校や社会のきまりを守っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を <b>92%</b>以上にする。(昨年度は92%)</li> <li>令和3年度の校内調査における「体育大会・宿泊行事・学年行事などの学校行事に活発に取り組んでいますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を <b>88%</b>以上にする。(昨年度は88%)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>防災・減災教育の推進</p> <hr/> <p>指標</p> <p>避難訓練を含む防災訓練を年間2回以上、区役所や消防署と連携して実施する。</p> <p>地域・行政・学校が協働で創る防災教育を構築し、生徒の防災意識を向上させる。</p>	
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>学校のきまりについて教職員で共通理解し、生徒が学校のきまりを守れるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>オリエンテーション、風紀チェックを実施し、生徒の規範意識を醸成させる。</p>	
<p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団を育成する。</p>	





--

(様式2)

## 大阪市立真住中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(昨年度 <b>1.2 ポイント</b> 向上)</li> <li>令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より <b>3 ポイント</b> 減少させる。(昨年度 <b>3 ポイント</b> 減少)</li> <li>令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より <b>2 ポイント</b> 増加させる。(昨年度 <b>0.2 ポイント</b> 減少)</li> <li>令和3年度の校内調査における「授業等で、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。(昨年度は <b>75%</b>)</li> <li>令和3年度の全国体力、運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である(長座体前屈、50m走)の平均の記録を、前年度より向上させる。 令和元年度の記録 ( )は全国平均値とのT得点差 長座体前屈 男子; 37.08 cm (6.0 点)、女子; 43.82 cm (2.5 点) 50m走 男子; 8.17 秒 (1.7 点)、女子; 9.09 秒 (3.5 点)</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の校内調査における「学校の宿題などの課題を出していますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を <b>88%</b> 以上にする。(昨年度 <b>88%</b>)</li> <li>令和3年度の校内調査における「授業等で、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を <b>75%</b> 以上にする。(昨年度 <b>75%</b>)</li> <li>令和3年度の校内調査における「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していなかったところについて、わかるまで教えてくれていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を <b>75%</b> 以上にする。(昨年度 <b>75%</b>)</li> <li>令和3年度の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を <b>70%</b> 以上にする。(昨年度 <b>69%</b>)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 長期休業中や放課後の学習支援を実施し、生徒たちの基礎・基本の定着を図る。</p> <p>指標 長期休業中や放課後の学習支援を実施する。 放課後の学習会の回数を昨年度より増やし、基礎基本の定着を図る。</p>	

取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 図書館活用の充実を図り、読書の機会を増やす。	
指標 令和2年度の校内調査における「学校では、読書に親しむ機会(図書館をふくむ)がありますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を <b>50%以上</b> にする。 (昨年度 46%)	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 長期休業中や放課後の学習支援を実施する。	
指標 年間 30 日以上実施する。	
取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業研究を実施する。	
指標 「主体的、対話的で深い学び」の視点を取り入れた公開授業を各教員、年1回以上実施する。	
取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 I C T機器等を活用することにより、生徒の学習意欲を向上させる。	
指標 I C T機器等を活用した研究授業を1回以上実施する。	
取組内容⑥【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 タブレット端末を活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。	
指標 タブレット端末の活用率を月平均7回以上に向上させる。(昨年度月平均5.5回)	
取組内容⑦【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 英語の授業等でI C Tを活用して、英語によるコミュニケーション能力、異なる文化や考え方を理解し多面的に深く理解する力の育成に取り組む。	
指標 令和3年2年生の英検4級レベル以上の割合を前年度よりも向上させる。(昨年度 34.2%)	
取組内容⑧【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 論理的思考力を高めるためにプログラミングの授業を展開する。	
指標 技術・家庭科のプログラミング授業等で、ロボットを用いた計測・制御システムの授業内容を、3年生で年間10時間以上を実施する。	
取組内容⑨【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 生徒に睡眠時間の大切さを意識させる取組を実施する。	
指標 令和2年度の校内調査における「家庭で、毎晩、23時までに寝ていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を <b>50%以上</b> にする。(昨年度 47%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について</p>          <p>【取組内容】について</p>

次年度への改善点
<p>【目標設定】について</p>